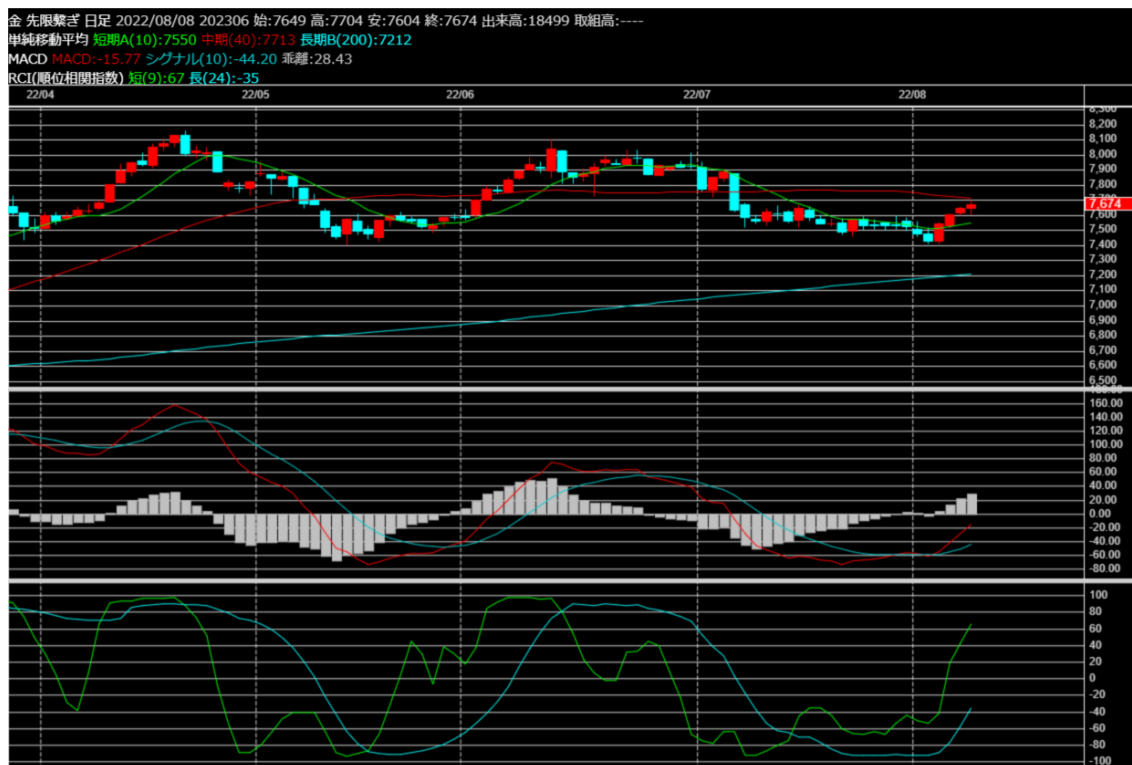


＜金標準先物、10 日 CPI の低下で金利低下：ドル安の恩恵予想・・・＞



(出所：オアシス)

7月の雇用統計では、非農業部門就業者数が事前予想の24.9万人増を大幅に上回る52.8万人増となり、失業率では3.5%と50年ぶりの低水準を示している。そのため市場は、パウエルFRB議長のリセッションを否定したシナリオ通りの展開が示された事で、9月のFOMCでは3回連続の0.75%の利上げ観測が高まりを見せている。

特に金標準先物は、3日にペロシ下院議長の台湾訪問を受けた台湾海峡を挟んで台中の地政学的なリスクの高まりを示した事から、有事の金など逃避需要が強まりを見せて週末には一時7700円を付けるなど台中問題で300円近い上昇を行なっている。ただ雇用統計を受けた市場は、利上げ観測が強まるため目先調整安の展開が予想される。

しかし来週は10日にインフレ指標である消費者物価指数(CPI)の発表が予定されているが、前回の発表からNY原油価格は30ドル以上の下落を行っており、中古車販売でも5月の16.1%から7.1%へ低下するなど物価上昇は抑えられており、CPIは9.1%を上回る可能性はかなり低く、インフレの落ち着きからドル安の動きが強まり、金価格を押し上げる可能性が高まると思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが上昇を続けながら、ヒストグラムも拡大を続けている。RCIでも短期が上昇し、長期も上昇するなどオシレーターは強気を示唆している。そのため日足が40日移動平均線を上回る7713円を超える事が出来ると、再度7900円を試す値動きに結び付くと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,537,000 円(2022 年 8 月 8 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円(2022 年 8 月 8 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>